

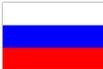


## 【韓国】 総合指数は週間で2.0%安と3週ぶり反落、今週は米中イベントに注目

### 先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で2.0%安と3週ぶりに反落した。3月1日が休場で4日間の立ち会い。週初の26日は前週末の米株大幅高で買い安心感が広がり、3週ぶり高値を付けたが、その後は休場を挟んで3日続落。27日のパウエル米FRB議長のタカ派的発言を受けて利上げペース加速への懸念が強まり、投資家のリスク投資意欲が低下したことに加え、3月1日にトランプ米大統領が鉄鋼やアルミニウムの輸入制限を発動すると表明したことを受け、米貿易保護主義や米中貿易摩擦の激化、世界貿易停滞などへの警戒が強まった。2日は鉄鋼株や海運株を中心に幅広く売られ、2月13日以来の安値で終えた。今週は7-8日に米中の貿易統計、9日に米雇用統計が発表予定で、結果次第では相場のボラティリティが高まる可能性がある。

### ▼指数チャート



## 【ロシア】 RTS 指数は週間で3.0%安と3週ぶり反落、今週は自律反発に期待

### 先週の動き／今週の展望

RTS 指数は週間で3.0%安と3週ぶりに反落した。前週に大幅続伸した流れで週明けに52週高値を更新したが、週中には前週末比でマイナスに転落。週後半もさえない展開で、週の安値圏で取引を終えた。米国株や原油価格の急落で、指数構成45銘柄のうち34銘柄が週間ベースで下落した。週明け26日は前週末にS&Pグローバル・レーティングがロシアのソブリン債の格付けを投資不適格の「BBプラス」から「BBBマイナス」に1段階引き上げたことを受け、2014年7月以来の1330ドル台まで上昇した。ただ、週半ばには原油安に加え、先に急落していた米国株に連れ安し、マイナス圏に転落。その後、週末まで下落幅を広げ、2日は1261.63ドルで取引を終えた。今週は外部要因に左右されそうだが、自律反発に期待。

### ▼指数チャート



## 【ベトナム】 VN 指数は週間で1.7%高と3週続伸、今週は利益確定売りに注意

### 先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で1.7%高と3週続伸。前週に4%超の大幅続伸となった流れを引き継ぎ、堅調に推移した。週明けから主力銘柄の上昇が相場をけん引した。先週発表された経済指標では2月のCPI上昇率が3.15%（市場予想：2.90%、前回：2.65%）、2月の貿易収支が9億ドルの黒字（前回：3億ドルの赤字）、2月の小売売上高が前年同月比10.1%増（前回：9.5%増）といずれも好調だった。指数は週明け26日にプラスで寄り付き、1115ポイント前後を維持。その後は1110から1130ポイント手前の高値圏で週後半までもみ合った。2日は前夜の米国株式市場が大幅下落したことを受けマイナスで寄り付いたがすぐに切り返し、ほぼ高値である1121.21ポイントで取引を終えた。今週は52週高値接近での利益確定売りに注意。

### ▼指数チャート



## 【インドネシア】

**【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.6%安、2月の日経 PMI は 16年6月以来の最高値に到達**

ジャカルタ総合指数は週間で0.6%安と3週ぶりに反落。2月月間では0.1%安。先週は一進一退を繰り返した1週間だった。週初の26日は金融株が売られて、指数は前営業日比1.0%安と反落してスタート。1日は2月の日経 PMI が51.4と16年6月以来の高水準に到達したことが好感されて、指数は終値で4日ぶりに6600ポイントを回復した。同日に発表された2月のCPI上昇率は前年同月比3.2%で、物価上昇圧力は前月からやや低下している。2日は前日のNYダウが大幅続落した影響で寄り付きから下落し、6600ポイントを割り込んで取引を終えた。今週は9日に1月の小売売上高が発表される予定。

### ▼指数チャート



## 【シンガポール】

**【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 1.5%安、今週は製造業 PMI 低下への反応が焦点**

ストレーツタイムズ指数は週間で1.5%安と3週ぶりに反落。2月月間では0.5%安。先週は週初こそ続伸したものの、その後は軟調で、じりじりと下値を広げた。26日は1月の鉱工業生産が前年同月比17.9%増と市場予想から大幅に上振れたことが好感されて指数は続伸。ただ、27日に銀行最大手DBSグループが下落をけん引して反落すると週末まで下げ止まらず、2日には6営業日ぶりに終値で3500ポイントを割り込んだ。今週は前週末の取引終了後に発表された2月の製造業 PMI が52.7と前月の53.1を下回ったことに対する市場の反応が焦点。外部要因では8日に発表される中国の貿易統計が意識されそうだ。

### ▼指数チャート



## 【タイ】

**【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.2%高、27日の場中に過去最高値を更新**

SET 指数は4日間の取引で0.2%高と3週続伸。2月月間でも0.2%高。先週は週初の上昇が指数を支えた。26日はエネルギー株が買われて終値ベースで前営業日比1.4%高と続伸。一方、27日は場中に一時、過去最高値を更新したものの、その後売られて反落した。28日は1月の鉱工業生産が前年同月比3.4%増と市場予想から上振れたが買い材料にならず、指数は前日からほぼ横ばい。万仏祭の祝日を挟んだ2日は、2月のCPI上昇率が前年同月比0.4%と伸び悩み、中央銀行の目標値に届かなかったことが嫌気された。今週は国内の重要イベントが少なく、米株相場の動向など、外部要因が指数を左右しそうだ。

### ▼指数チャート



## 【マレーシア】

**【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.3%安、今週は1月の貿易統計に注目**

クアラルンプール総合指数は週間で0.3%安と3週ぶりに反落。2月月間では0.7%安。先週は一進一退でもみ合った。週初の26日は小幅に反落したものの、27日は金融株が買われて反発。一方、28日は日本の1月の鉱工業生産が前月比6.6%減と4カ月ぶりにマイナスに転落したことや、中国の2月の公式製造業 PMI が市場予想を下回ったことが嫌気されて売られた。1日はパーム原油の先物価格上昇を受けて反発したが、2日は米国による保護貿易への警戒感から鉄鋼株が売られ、反落して取引を終えた。今週は5日に1月の貿易統計が発表されるほか、7日には中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。

### ▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。